

2022年5月12日

2022年3月期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

損益計算書（連結）

単位：百万円	※2021年3月期	2022年3月期	増減額	増減率
売上高	55,181	56,607	1,426	2.6%
営業利益	3,609	4,795	1,186	32.9%
経常利益	3,092	4,880	1,788	57.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,713	4,290	1,576	58.1%

増収・増益要因

- ✓ 医療用医薬品事業において産婦人科製品の「レルミナ」「フリウエル」の大幅な伸長、内科製品の「チラーヂン」「リフキシマ」が好調に推移したほか、他社製品供給問題に端を発する代替需要の高まりにより「カンデサルタン類」「リュープロレリン」が計画を上回った。
- ✓ 動物用医薬品事業においては畜産・コンパニオンアニマル用薬品に加えて飼料用添加物が好調に推移した。
- ✓ CDB-2914（ウリプリスタル）の開発中止による無形固定資産の減損処理などの特別損失が発生したが、あすか製薬が保有する土地および建物を譲渡したことによる固定資産売却益により当期純利益は増加となった。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	※2021年3月期	2022年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	50,314	50,791	89.7%	477	0.9%
動物用医薬品	4,742	5,630	9.9%	888	18.7%
その他	125	185	0.3%	61	48.4%
合計	55,181	56,607	100.0%	1,426	2.6%

※ご参考：2021年3月期実績はあすか製薬株式会社としての数値

2023年3月期予想（連結）

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	増減額	増減率
売上高	56,607	57,500	892	1.6%
営業利益	4,795	4,200	△ 596	△ 12.4%
経常利益	4,880	4,300	△ 581	△ 11.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,290	3,300	△ 990	△ 23.1%

増減要因

- ✓ 売上高は先発品である「レルミナ」「リフキシマ」「チラーヂン」を中心とした医療用医薬品事業が伸長することで、増収を予想。
- ✓ 一方で営業利益、経常利益は研究開発費の増加、新型コロナウイルス感染症により影響を受けていた事業活動の正常化に伴う費用の増加が見込まれることから減益を予想。
- ✓ 当期純利益は前年度に計上した特別利益の計上を見込んでいないため減益を予想。

主要製品売上高

単位：百万円

領域	製品	2021年3月期	2022年3月期		2023年3月期計画	
		実績	実績	前同比(%)	見込み	前同比(%)
内科	カンデサルタン類 ※1.※2	12,329	12,394	100.5%	10,840	87.5%
	チラーチン	7,209	7,499	104.0%	7,714	102.9%
	リフキシマ	4,334	4,854	112.0%	5,289	109.0%
	メルカゾール	1,401	1,458	104.0%	1,440	98.8%
	アムロジピン ※1	1,294	1,073	82.9%	963	89.7%
産婦人科	レルミナ	5,709	7,334	128.4%	9,779	133.3%
	フリウエル ※1	2,952	3,463	117.3%	3,083	89.0%
	アンジュ	908	854	94.1%	896	104.9%
	マグセント ※3	908	850	93.6%	682	80.2%
	ルテウム	531	661	124.5%	836	126.5%
泌尿器科	リュープロレリン ※1.※4	4,502	5,183	115.1%	4,589	88.5%

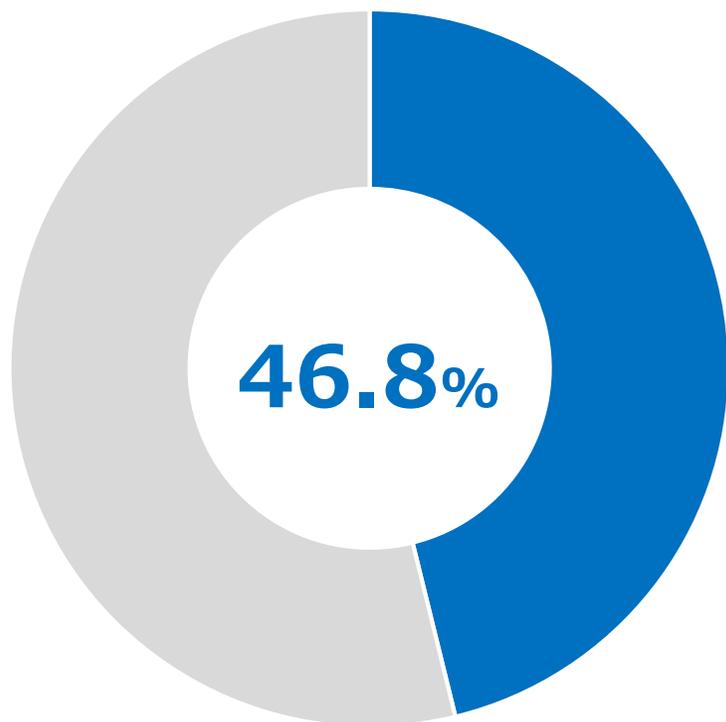
※1 ジェネリック医薬品
 ※2 配合剤を含む

※3 硫酸マグネシウム製剤の合算値
 ※4 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

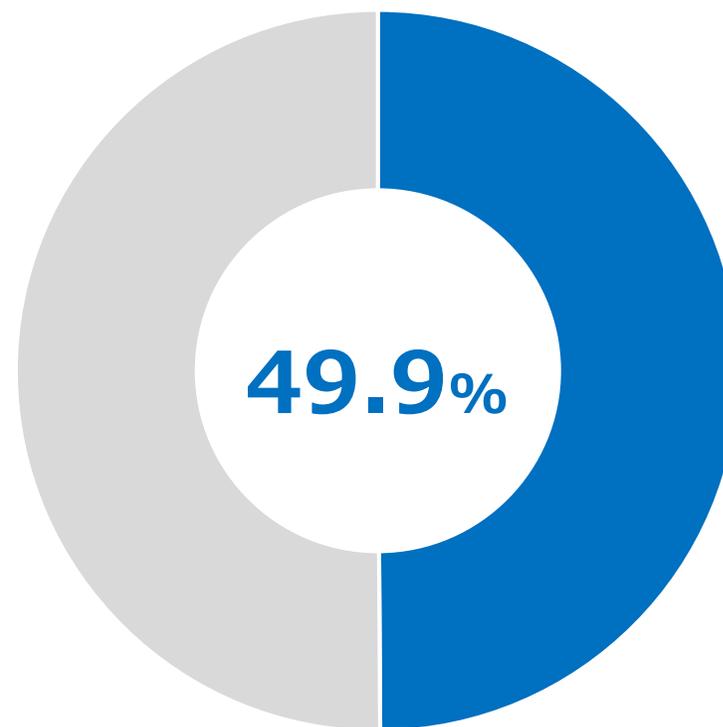
先発品比率

- 先発品
- GE品

2021年3月期



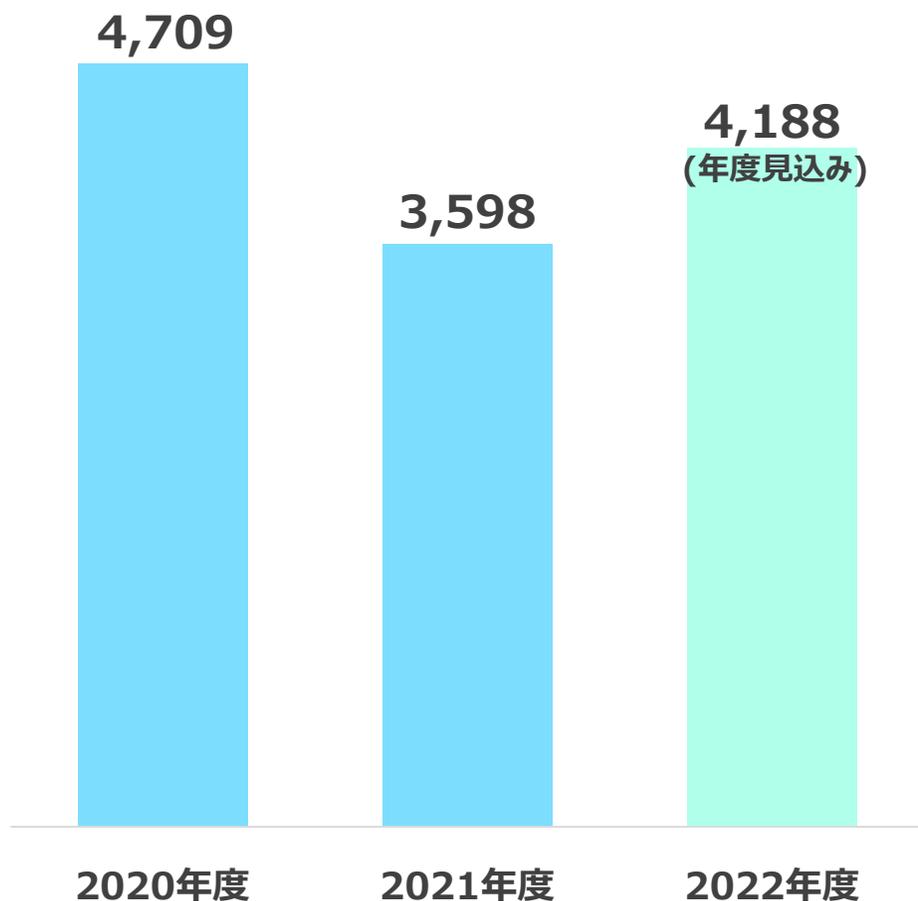
2022年3月期



研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2022年5月12日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
(オプション契約) 子宮頸部異形成治療薬 キノファーマにて開発中	Ph I / II (韓国)
TRM-270 (癒着防止材) (消化器領域・産婦人科領域)	治験準備中
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	Ph II / III
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II ※
レルゴリクス配合剤 子宮筋腫	開発準備中

※高用量で追加のPh I 試験を終了 (2022年4月)